

# はじめに

サ ト ウ タ ツ ヤ

(文学部助教授・人間科学研究所研究専念教員)

荒 川 歩

(人間科学研究所研究支援者)

この冊子は、対人援助の実践や研究に関係する方法論のうち、心理学史や学問史をモチーフとした講演やシンポジウムの内容を1冊にまとめたものである。今回は、講演1つ、学会でのワークショップ2つ、その他1つ、計4つの原稿が掲載されている。また、記載されている言語については日英2つずつということになり、海外への成果発信という役割も果たし得ていると自負している。ご講演・ご参加その他ご尽力いただいた先生方に改めてお礼を申し上げます。

対人援助の実践に限ったことではないが、その評価を適切に行うことは難しい。現在の評価だけが常に正しいとも限らない。学問史には様々な機能があるが、その時点では分からなかった文脈も含めた評価が可能であることに異論をはさむ人はいないだろう。学問史のもつ豊かな機能を実感できる冊子として、この冊子が読まれてほしいと願っている。

さて、立命館大学人間科学研究所はこの5年間、学術フロンティア推進事業「対人援助のための人間環境デザイン」に取り組んできた。本年度、2004年度が最終年度であり、現在は研究の総まとめにかかっている時期である。歴史研究を行うこと、その成果を公刊することは、こうした広い分野のつながりを見いだすのに有用ではないかと感じており、それはまた将来の指針ともなりえるだろう。

なお、この冊子刊行にあたっては、日本学術振興会の「人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業」に参加している「ボトムアップ人間関係論の構築」プロジェクトの協力を得ていることも付記しておきたい。

最後に、今回収録した原稿掲載順に原稿の由来などについてまとめておく（敬称略）。

原稿1 2003年 9月13日10:00~12:00

日本心理学会第67回大会(東京大学)

企画者 サトウタツヤ・佐藤隆夫

話題提供者 高砂美樹・肥田野直・サトウタツヤ

指定討論者 金森修・大山正・辻敬一郎

司会者 西川泰夫

原稿2 2004年 9月13日16:00~18:00

日本心理学会第68回大会(関西大学)

企画者 荒川歩・小泉晋一・日本心理学会心理学史研究会

話題提供者 小泉晋一・泉野淳子・高柳信子

指定討論者 西川泰夫・高砂美樹

司会者 荒川歩

原稿3 2004年1月24日 (奈良女子大学)での講演

演題「What is Development? Axiomatic bases for a Developmental Science」

講演者 = クラーク大学教授 (立命館大学客員教授) Jaan Valsiner

<http://www.psy.ritsumei.ac.jp/~satot/diarybox/Val/VAL04/0122/lecture.html>

原稿4 以下のベトナム語出版のために準備した英語の原稿を改変したもの。

Tatsuya Sato 2005 Lich su tam ly hoc ung dung o Nhat Ban(日本における応用心理学の歴史), In Vu.D., Ito,T., Phan,T.M.H., & Yamamoto,T. (編著)."Ung Dung Tam Ly Hoc tai Nhat Ban" (『日本における心理学の応用』) (pp.153-168).Hanoi: Nha Xuat Ban Tu Dien Bach Khoa (ハノイ: 百科事典出版社) (ベトナム語) pp.13-27.

参考・立命館大学人間科学研究所及び「ボトムアップ人間関係論の構築」PJのHP

[http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/hs\\_index.htm](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/hs_index.htm)

[http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/kenkyu\\_2004/bottomup.htm](http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/k-rsc/hs/kenkyu_2004/bottomup.htm)